

資料

「普通であること」

“普通であること”は、差別しないで生きていくことの保証なのだろうか。“普通の世界”では差別が起きることはないのだろうか。“普通であり続けようとする”で「わたし」は差別しない人間として生きていけるのだろうか。

(中略)

一般的で、どのような状況や場面にでもあてはまる“普通”など、どこを探してもない。“普通でありたい”という思いは、おそらくは常に私たちが捉えて離さないだろう。しかし、その思いのなかにある“普通”とは、世の中でいろんな意味や基準から考えて“外れている、あるいは外されている”人々や現実の“仲間入り”をできるだけしたくないという意志の表れなのである。

(中略)

“普通であること”は、決して私たちに“差別をしない”保証を与えるものではない。むしろ、そこに安住することで、世の中にある差別は、確実に生き延びて、育っていくだろう。つまり、私たちが深く考えることなく“普通に安住すること”は、差別にとってこのうえなく良い“こやし”となるのだ。

出典：『差別原論 〈わたし〉のなかの権力とつきあう』好井裕明著、2007年（平成19年）より抜粋
発行：平凡社

----- 切り取り線 -----

資料

「普通であること」

“普通であること”は、差別しないで生きていくことの保証なのだろうか。“普通の世界”では差別が起きることはないのだろうか。“普通であり続けようとする”で「わたし」は差別しない人間として生きていけるのだろうか。

(中略)

一般的で、どのような状況や場面にでもあてはまる“普通”など、どこを探してもない。“普通でありたい”という思いは、おそらくは常に私たちが捉えて離さないだろう。しかし、その思いのなかにある“普通”とは、世の中でいろんな意味や基準から考えて“外れている、あるいは外されている”人々や現実の“仲間入り”をできるだけしたくないという意志の表れなのである。

(中略)

“普通であること”は、決して私たちに“差別をしない”保証を与えるものではない。むしろ、そこに安住することで、世の中にある差別は、確実に生き延びて、育っていくだろう。つまり、私たちが深く考えることなく“普通に安住すること”は、差別にとってこのうえなく良い“こやし”となるのだ。

出典：『差別原論 〈わたし〉のなかの権力とつきあう』好井裕明著、2007年（平成19年）より抜粋
発行：平凡社